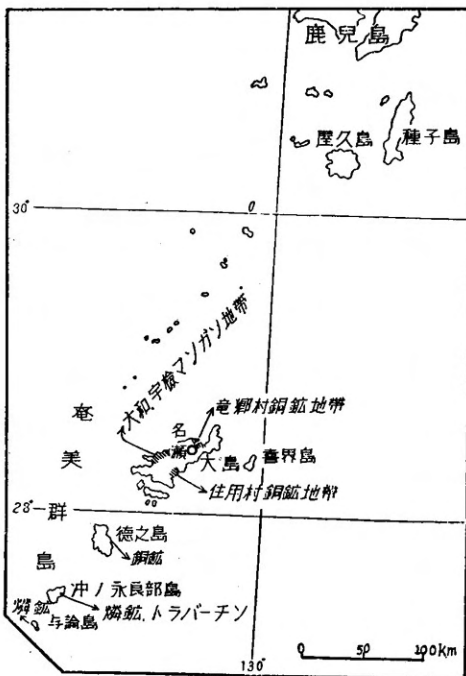


奄美群島 は鹿児島と沖縄の中間にあつて、昭和28年12月に復帰し、鹿児島県大島郡となつたわが国最南の群島で大島本島、喜界島、徳之島、沖永良部島、与論島の主要5島からなり、最南端の与論島は沖縄島と指呼の間にある。

気候は亜熱帯性で平均21度、冬季10度位、ソテツ、ガジマル、アダなどの植物が密生し、主産物の黒砂糖を初め、バナナ・パパイヤ・ボンカン・パイナップル等を産し、言語・風俗なども大分異なつていて、内地から渡つた者にはかなり奇異な感じを与える。また本島と徳之島には猛毒のハブがいて年年かなりの被害者を出し、訪問者をおびやかす。

鹿児島から205哩 約15時間で本島の名瀬市に達するが、ここは人口3万余、本群島唯一の都会である。各離島へは更にここから数時間ないし1昼夜の船旅を要し、各島内の交通もわずかにバス、小舟などがある程度でかなり不便である。

電力は本島と徳之島に小規模な水力発電所がある外はわずかな火力発電にたよつていてため、電灯普及率は50%に満たない。このことからわかるように、奄美群島全体としては未開の所が多い。



奄美群島の位置図

奄美大島の

地質と鉱産物

奄美群島の地下資源については従来あまり詳しく調査されたことはないが、今回群島の1部を視察する機会を得たので、その概要を述べてみよう。

群島の地質 は大きく2種類に分けられる。本島および徳之島は主として古生層からなり、1部には花崗岩が見られるが、喜界島、沖永良部島、与論島は主として新しい珊瑚礁からできている。このことは地形にも現われ、前者は山岳重畳として断崖が多く、後者は平坦な丘陵性の地形を示している。しかし本島、徳之島の一部にも珊瑚礁の存在が認められるし、沖永良部島の中央部には基盤の古生層が見られる。

本島の面積 は800km²余では佐渡に匹敵し、全島が急峻な山岳で平地に乏しく、北部の半島部の1部を除いては古生層からなる。古生層は島の延長方向に平行（北東—南西）の走向をもち、北に急斜し、ほとんど粘板岩と砂岩の互層で、島の南西部にチャート、石灰岩が見られる。花崗岩は島の北東部竜郷村、中央南岸の住用村附近に露出している。

本島の鉱床 としては、マンガン鉱床、含銅硫化鉄鉱床が知られているが、マンガン鉱は島の南西部大和村、宇検村などの古生層中、とくに珪質岩に伴うもので、幾つかの旧坑があり規模も相当のものと推定され、品位も60%に達するものがあつて探鉱価値に富むものと云われている。含銅硫化鉄鉱床は、竜郷、住用両村にあつて共に花崗岩体に近い古生層中の層理に沿う含銅磁鉄鉱石英脈であるが、1部にはキースラガー型と考えられるものがある。両村のうちで1〜2カ所は探鉱価値があるものと思われる。

徳之島 は群島茅2の島で地質は主として古生層からなり本島に似ているが、島の南西部に琉球石灰岩（才四紀の珊瑚礁）がかなり広く発達するため、平野部が比較的広い。鉱床としては古生層中に本島と同様の含銅硫化鉱床が知られているが、規模等は明らかでない。

沖永良部島 は古生層を基盤とし、主として琉球石灰岩からなる島で、地形は平坦で鉱床としては燐鉱およびトラパーチンがある。燐鉱は海鳥糞が石灰岩中に浸透してできたものと考えられるもので、島の南西部知名附近に多く存在する。品位は最高 P_2O_5 30% に及ぶがこのような部分は少ない。

トラパーチンは琉球石灰岩の1部の緻密美麗な部分を石材として利用するもので、沖縄にも産出し特殊な装飾的石材として興味がある。

又この島の古生層中にアンチモニー鉱脈の存在が知られているが、量的には期待のできないものようである。

与論島 は最南端にあつて群島中最小の島で面積 22km^2 余、人口 8,000 からなり、古生層を基盤とし、ほとんど琉球石灰岩におおわれている。沖永良部島と同様に平坦で、島中に多くの燐鉱産地がある。この燐鉱も沖永良部島と同様のものであるが、従来からかなり試掘されていて存在範囲なども比較的明らかにされており、探鉱価値に富むようである。

喜界島 は古生層の露出がなく、琉球石灰岩とその下部の島尻泥岩からなり、石灰岩中に燐鉱の存在が知られるが、存在範囲は小さいようである。

結局、将来に探鉱・開発の望みを有するものとしては本島におけるマンガン、与論島・沖永良部島の燐鉱やトラパーチンなどが考えられ、次いで本島の銅鉱などがやや期待し得よう。

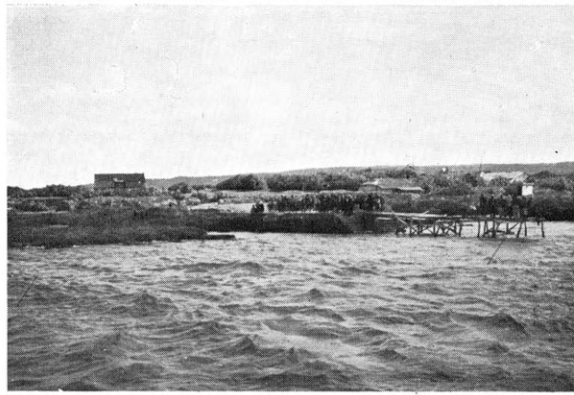
しかしいずれにしても遠隔の地であり、交通・運搬の不便という悪い条件があるので各種の困難を伴うであろうことは明らかであるが、これらの資源が開発されることが奄美群島の経済上の足しになり、島の発展に益するならば、この実現が待たれる次才である。

(鉱床部 非金属課)

琉球石灰岩の台地
(喜界島)



琉球石灰岩の台地と海岸の現世隆起珊瑚礁
(喜界島)



海岸に面した古生層の急崖で露頭を探る
(本島住用村青久部落)



本島住用村青久部落と周辺の海岸崖をさける珊瑚で作った城壁がある澳



大島袖のはたおり
(本島竜郷村)

